

上級日本語文法クラスにおける TED トークを用いたディクトグロスの実践報告

関（中園） 麻里子

要 旨

本報告は、上級文法クラスで行った TED トークを用いたディクトグロスの実践を報告するものである。ディクトグロスは文章の聞き取りを行い、文章を再構築する活動であるが、TED トークを教材として用いた本実践でも、学習者間で協力しながら、ディクトグロスの文章を復元しようとする様子が見られた。TED トークを教材として用いることについては、授業実施時間との調整が必要ではあるが、ディクトグロスの教材だけでなく、その他の活動においても有用な教材になることが示唆された。

キーワード

ディクトグロス、上級、文法学習、TED トーク、動画

1. はじめに

文法学習では、教師が言語知識を与えるだけでなく、文法を使い「聞く」「読む」「書く」「話す」活動を設定することが、文法指導における教師の重要な役割であり、その活動を通じて学習者は言語が運用できるようになっていくとされている(国際交流基金 2010: iii)。加えて、文法学習では、学習する項目がどのような文脈・場面で実際に使われているのかを提示することは、インプット・アウトプットの両面からも重要であるだろう。国際交流基金(2010: 16, 27)も、文法学習について「質のよいインプット」、つまり、「文法項目が使われる自然な文脈・場面」、「学習者のレベルや興味、関心に合ったもの」を与えることで、学習者の言語習得が促進されると述べている。筆者が担当した上級文法クラスでも、上記のことを踏まえ、授業内で「聞く」「読む」「書く」「話す」活動を設定し、「聞く」活動の一環

として、ディクトグロスを用いた授業の実践を行った。

そこで、本報告では、上級学習者を対象とした文法クラスで行った、TED トークを用いたディクトグロスの授業実践報告をするとともに、実践者として感じた実践の成果、課題を述べる。

2. ディクトグロスとは

ディクトグロスとは、ある程度まとまった文章を聞き取り、ペア、グループで文章を再構築する活動を行うものである。ディクトグロスの活動の利点は、四技能を統合的に使用できること、インプットとアウトプットの両方の活動に焦点が当てられることである。「まとまった文章」とは、学習者のレベルに合っているもの、焦点を当てたい文法項目が含まれていること、40秒程度で音読できるもの（3～5行）がよいとされている。学習者は、この「まとまった文章」を聞き、メモを取り、文章を復元していく。そして、ペア、グループで聞き取った内容を話し合いながら修正する。元の文章と学習者が復元した文章を比較し、間違えた点を修正する。教師は必要に応じて、文法項目等の説明を行う。学習者はこの修正の過程を通じて、言語形式への注意が向くとされている。このことから、ディクトグロスは、フォーカス・オン・フォームの有効なアウトプット活動と位置づけられている（国際交流基金 2010、国際交流基金 2019）。

ディクトグロスの活動を行うことで、文法学習でも全ての技能を使いながら学習することが可能であること、学習項目となる文法に注意が向けられる利点を考慮し、本実践の対象となる文法クラスでは「聞く」活動の一環としてディクトグロスの活動を行うことにした。

日本語の授業でディクトグロスを扱ったものに山口・鈴木（2014）がある。山口・鈴木は、中級学習者を対象にディクトグロスの活動を行い、ディクトグロスの活動は、総合的な日本語能力の活性化を促し、聴解だけでなく文法・語彙学習が同時にできるというメリットがあることを述べている。教材に関しては、学習者のレベルに合わせたもの、日本事情など取り扱った適切な教材を選ぶことも重要であると述べている。

ディクトグロスの教材として、教科書内の文章だけでなく、NHK NEWS Web (堀 2017) などを扱ったものもある。筆者は、山口・鈴木が述べている内容、そして本報告の「1. はじめに」で述べた「文法項目が使われる自然な文脈・場面がある」ことを踏まえ、実際の講演の動画である TED トークを教材としてディクトグロスに用いることにした。

3. TED トークとは

TED とは、様々な分野の人々が「よりよいアイデアを広めよう」という理念のもとに講演⁽¹⁾を行うイベントである。その講演はインターネット上で、無料で見ることができ、英語だけでなく、日本語で行われるものもある。本報告では、この TED の講演を「TED トーク」と呼ぶことにする。

日本語の TED トークを用いて日本語の授業を行ったものに、義永 (2021) がある。義永は中上級の学習者を対象に、TED トークを教材として用いて、内容理解のための学習、動画の内容についてのディスカッション、TED トークを参考にしながら学生自身にスピーチをさせるなどの授業を行った。義永は TED トークを教材として用いることについて、「アクセスがしやすく生の日本語に触れることができることに加え、社会の様々な課題や自らの生き方について考える機会を提供する点でも、日本語教育のリソースとして大きな可能性を持っている」と述べている。

筆者は、義永が指摘すること、本報告「2. ディクトグロスとは」で筆者が述べたことに加え、TED トークは実際の講演を扱った動画ということもあり、文法学習だけでなく、スピーチ・プレゼンテーションの発表方法や、使用される日本語の表現などを学ぶ良い機会になると考え、TED トークを教材として導入することにした。

4. 実践報告

4. 1 授業目標・実践の目的

筆者が在籍する名古屋大学言語教育センターでは、名古屋大学に在学、在職する外国人留学生、研究員、教職員を対象に、初級から上級クラスま

で幅広いレベルに対応した日本語クラスが開講されている。筆者は、そのうちの「UJ701G 文法」、上級レベルを対象とした文法クラスを2023年春学期に担当した。このクラスでは、

- ①中級から上級レベル(JLPT N1～N3レベル)の文法項目を学び、「読む・聞く・書く・話す」ことに応用できるようになること
- ②学習した文法項目を理解し、自分のことばで使えるようになること
- ③今まで学習した文法項目を整理し、場面に応じて適切な文法項目が使えるようになること

を目標とし、「聞く」活動の一環として、ディクトグロスの実践を行った。

4. 2 授業概要・対象者について

UJ701G 文法の授業は、2023年春学期に全15回（1回あたり90分）で実施したが、そのうちディクトグロスの実践は、第8回と第15回の合計2回、行った。授業時間90分のうち、30分間テストのフィードバックを実施し、残り60分間でディクトグロスの実践を行った。2023年春学期の登録受講者は40名、日本語レベルは中上級から上級レベルであった。学習者の国籍は多岐にわたるため割愛する。

4. 3 扱った TED トークの内容と、文法項目について

ここでは、本実践で扱った TED トークと、ディクトグロスで焦点を当てた文法項目を述べる。扱った TED トークは、授業目標と照らし合わせ N1～N3 の文型が含まれていること、加えて専門的知識がなくても理解しやすいものを基準にして選定をした。

TED トークのタイトル・スピーカー・ディクトグロスの聞き取り対象箇所となった部分から取り上げて説明を行った文法項目を表1に示す。

表1 授業内で取り扱った TED トークのタイトル・スピーカー・文法項目

1回目 高橋晋平「新しいアイデアの作り方」
(1) ～に基づく (比較文型として、～を踏まえて) (2) ～あまり (3) かつ／なおかつ
2回目 松山大耕「Reasons for religion — a quest for inner peace」
(1) ～しかない (2) ～にしろ～にしろ (3) ～に基づく (4) ～のではないか

4. 4 ディクトグロスの実施方法

ディクトグロスの実施方法は、国際交流基金(2010)を参考にし、以下の手順で行った。

- ① TED トークの概要を教師から説明。学生は、ディクトグロスの対象となる TED トークの動画を最後まで視聴し、トピックの把握をする。その後、グループ(3、4名)で聞き取った内容を話し合う。
- ② ディクトグロスの趣旨・実施方法を教師から説明⁽²⁾。
- ③ 学生は聞き取りの対象となる箇所から動画を視聴し、それを聞きながら(見ながら)メモを取る。(動画は2回視聴)
- ④ 聞き取れた部分をグループでシェアをし、聞き取った内容の修正活動を行う。
- ⑤ 再度、ポーズが入った動画を視聴し、④の文章を修正するための聞き取りの活動を行う。(動画は1回視聴)
- ⑥ ④の活動をもう一度実施する。
- ⑦ 教師は聞き取り箇所のスクリプトを配布。学生は、教師作成のスクリプトと、自分の文章を比較し、聞き取った内容の確認・修正作業を行う。その後、教師が字幕のついた TED トークを1文ずつ止めて再生するのに合わせて、内容の確認を再度行う。
- ⑧ 教師から学習項目となる文法項目の説明をする。その後、学生は文章作成など簡単な練習を行う。
- ⑨ 授業時間の残りの時間で、動画全体の内容の確認を行う。

以下に、授業内で使用した資料の一部を提示する。

5. 実践者からみた活動の成果と課題

5. 1 授業の成果

ここでは、実践者からみた授業の成果を述べる。

学習者のノートからもみられるように、TED トークの内容を「聞き」、修正しながら、元の文章に近づけていく様子を授業中にも観察することができた。その際、修正のグループ活動では、グループで話し合い、目標の文型に近づけていく過程で、わからない語彙・文型はわかる人が説明をしたり、聞き取った内容が違う場合は、何が正解なのか互いの文章を照らし合わせながら積極的に話し合ったりする様子がみられた。これは、グループでの修正作業を実施することで、「聞く」活動だけでなく「話す」活動もできるというディクトグロスの活動の意義が生かされたと言える。また、ディクトグロスの聞き取り部分以外にも、動画の内容についても学習者間で説明をしたり、感想を言い合ったりする場面がみられた。

TEDxkyoto は TED トークのイベントについて「TEDx のイベントでは、TEDTalks の映像とスピーカーの生の講演とを鑑賞することで、深い議論が沸き起こり、小さなグループにも絆が生まれます」と述べている。TED トークは印象的、興味深いトピックも多く、今回のディクトグロスの活動中でも、学習者間で意見を交換し、「話す」総合的な練習にもつながったといえる。

グループ活動では、普段の授業では文法への理解力などが追いついておらず苦労していた学生が、ディクトグロスの活動では聴解力、ノートテイキング、要約する力に秀でており、グループをリードする様子がみられた。ディクトグロスは四技能全ての活動を使うということで、ディクトグロスの授業を通じて、文法も含め、自分の弱み、強みを改めて認識する場になったのではないかと思う。

また、「わからない語彙・文法はわかる人が説明していた」と述べたが、グループで聞き取った内容から文法を推測したり、教師から説明する前に学習者自身で調べていたりする自発的なグループもあった。また、教師から促しはしたが、グループの人が聞き取った内容の日本語が文法として正

しくない場合は、グループで修正するように伝えた。そうすることで、文法形式へ注目させることができたと感じる。

5. 2 授業の反省点

ここでは、実践者からみた授業の反省点を述べる。

ディクトグロスの活動を行ったのは、学期中の2回のみであったため、2回の実施ではディクトグロスの実施方法の定着が難しいと実践者として感じた。感じた理由としては、1回目の実施の際に欠席する学生がいるため、2回目に行う際、再度実施方法、ディクテーションとディクトグロスの違いを説明しなければならなかった。ディクトグロスの活動自体初めてだという学習者がほとんどであり、実施説明は必須であると思われる。授業時間に制限がある場合、こういった説明に余分に時間を取られることになる。また、1回目のディクトグロスの活動の際、聞き取りの活動に慣れないため、内容を書き取れない、キーワードの記述が1つ、2つという学生もいた。山口・鈴木(2014: 29)も「学習者が慣れ、自発的に取り組めるようになるまでには、3回以上必要になるだろう」と、述べているように、複数回行い、作業の定着化を図ることで、よりよいディクトグロスの活動が行えるだろう。

6. TED トークを教材として用いることについて

6. 1 ディクトグロスで用いることについて

ここでは、ディクトグロスで用いたTEDトークを教材として用いることについて、実践者から感じたことを述べる。

本実践では、教育用に加工された教材ではないTEDトークをディクトグロスの教材に用いて授業を行った。義永(2021)が述べていたように、実際の日本語の使用場面に触れることができる、自身で再度アクセスすることができるというメリットを考えると、TEDトークはディクトグロスの活動においても有用な教材になるだろう。

一方で、TEDトークを教材として用いるデメリットもある。TEDトー

クは10分以上の動画が多く、ディクトグロスの活動を行うまでのトピックの把握など、前段階の準備に時間がかかることがデメリットであると感じた。限られた授業時間では、ディクトグロスの部分以外、つまり動画の全てを詳細に扱うことはできなかった。60分という実施時間の関係上、ディクトグロスの実施と動画の内容の簡単な説明のみで精一杯であったと筆者は感じる。これは、TED トークを限られた時間で扱う上で大きな問題になると筆者は考える。限られた時間を有効に活用するためには、自宅等で事前に動画を視聴してくれることを学生に課題として与え、大まかな内容の把握をさせておき、授業内での動画視聴の時間をできるだけ減らすなど、工夫が必要になるだろう。

ここまで、ディクトグロスで TED トークを用いることについて述べたが、そのほかの活動についても述べたいと思う。

本実践では TED トークを用いてディクトグロスの活動のみ行ったが、TED トークはトピックが興味深いものも多く、学習者が興味を持ち、ディスカッションを行えるものが多く、文法学習で終わるだけでなく、さらに発展した活動を行うことができると感じた。

例えば、1 回目に扱った「新しいアイデアの作り方」では、スピーカーが新しいアイデアを生む方法として、しりとりや辞書を使ったことばの連想・連結法を紹介していた。この動画にならない、語彙の連想法を使って、学習者間で何か新商品を考えさせるグループ活動に発展させることが可能である。2 回目に扱った「Reasons for religion — a quest for inner peace」では、仏教の僧侶であるスピーカーが、日本人の宗教観や、僧侶としての自身の取り組みなどを紹介している。この動画で扱われている日本人の宗教観についてどう思うかなど、学習した文型を取り上げながら、ディスカッションの授業をするなど総合的な授業に発展させることも可能であると筆者は考える。このように、TED トークを教材として用いることについては、ディクトグロスの活動をはじめ、様々な活動に応用、発展させることができるだろう。今回は、シラバスとの整合性を考え実施はしなかったが、今後は様々な活動を導入していければと思う。

7. おわりに

本実践報告では、TED トークを用いたディクトグロスの活動の実践方法、実践者からみた活動の成果・反省点を述べた。今回の反省点も踏まえ、今後のディクトグロスの活動ならびに TED トークを扱った授業を発展させていきたいと思う。今回の報告では、授業アンケートの実施時期の関係で、学習者にディクトグロスの活動についてのアンケートを取ることはできず、教師からの実践方法の紹介、教師からみた成果・反省点を述べるに留まったが、今後はディクトグロスの活動・TED トークを用いた活動でどのような学び・気づきが得られるのか、TED トークを用いたディクトグロスの活動の学習効果などを検証していきたいと思う。

注

- (1) TED トークを表す表現として、「講演」「スピーチ」「プレゼンテーション」など様々な言葉が使用されているが、本報告では「講演」を使用する。
- (2) 実施2回目に教材として使用した「Reasons for religion — a quest for inner peace」では、聞き取りの前に、先に難解と思われる語彙のみいくつか提示、説明をした。
- (3) 学習者のディクトグロスの資料は、研究、報告に使用する旨を伝え、同意を得た学生のみ提出してもらった。資料として使用した学生のノートは、修正を加えた箇所などは青色で記入されていた。

参考文献

- 国際交流基金 (2010) 『国際交流基金日本語教授法シリーズ4 文法を教える』 ひとつし書房
- 堀恵子 (2017) 「ディクトグロスの話し合いによる再構築文に見られる文法項目と教師評価」『筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター日本語教育論集』 32, pp.1-20
- 山口恵子・鈴木秀明 (2014) 「中級学習者に対するディクトグロスの実践—文法クラスでの取り組み—」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』 6, pp.23-30

義永美央子 (2021) 「TED トークを用いたオンライン日本語授業の試み」『日本語教育方法研究会誌』28-1、pp.20-21

参考ウェブサイト

国際交流基金 (2019) 「日本語教育通信 授業のヒント『ディクトグロス』をやってみよう！」 <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/hint/201901.html> (2023年11月27日)

TEDxKyoto 「About Us」 <https://TEDxkyoto.com/ja/about-us> (2023年11月30日)